

活動レポート

道央技術士委員会

文責：道央技術士委員会 伊勢谷智映

平成27年度 第2回 施設見学会

1. はじめに

道央技術士委員会では、恒例の第2回施設見学会を11月27日(金)に実施しました。

- ・『施設見学会：北海道糖業株式会社 道南製糖所』
(参加者12名)
- ・『北海道新幹線開業による道央圏への影響についての勉強会：伊達歴史の杜カルチャーセンター』
(参加者13名)

今回は、伊達市内において上記見学会及び勉強会(意見交換会)を実施しました。

2. 施設見学会『北海道糖業株式会社 道南製糖所』

(1) 施設概要

北海道糖業株式会社(本店：東京)は、北海道における畑作農業の基幹作物として位置付けられている甜菜(ビート)から砂糖製品の生産・販売を行っている会社です。道南製糖所は、道内6振興局(後志・檜山・渡島・胆振・石狩・日高)にわたる広域より原料を集荷する、地区唯一の工場施設です。



図-1 道南製糖所の概要説明
(説明：道南製糖所 白幡 副所長)

(2) 施設見学

原料となる甜菜の収穫時期及び貯蔵可能期間の都合から、工場の稼働時期は10月～2月となります。見学時は原料集荷の最盛期で、場内では甜菜を満載したトラックが列を作っていました。



図-2 原料受入～流送工程

砂糖は、原料の洗浄～裁断秤量～滲出(温水に浸して糖分を溶出させ糖液にする)～不純物除去・ろ過～濃縮・結晶化の工程を経た高純度の糖液から遠心分離機により砂糖の結晶だけを取り出し、乾燥・冷却させて完成、となります。



図-3 滲出工程(透明な液=糖液)

工場内では、昭和 30 年代に製造された設備が現役でフル稼働していました。製糖所の方は「骨董品」と説明されていましたが、その表情はどことなく誇らしげに見えたような気がします。



図-3 工場内設備(パネル記載「昭和 34 年製造」)

工場の稼働時期以外は、翌年に向けての設備メンテナンス(分解清掃)や甜菜農家さんへの技術指導などで多忙な日々が続く、との事でした。

3. 『北海道新幹線開業による道央圏への影響についての勉強会』

(1) 概要

本見学会開催日は、北海道新幹線開業まであと 120 日というタイミングで、新幹線開業に関する報道発表(運賃・所要時間など)が日々更新されつつある、という時期でありました。

そんな中、標記勉強会との名目で道央技術士委員会幹事である長谷川哲也氏より各方面の話題を提供いただき、道央圏(特に胆振・日高地区)の持つ“魅力”を主題とした意見交換を行いました。



図-4 勉強会の様子

(2) 意見交換～道央圏の魅力を伝えるために

北海道新幹線の開業により、道内を訪れる観光客の周遊ルートやビジネス客の移動経路が大きく変わる可能性があります。そのような背景のもと、下記のテーマにて意見交換を行いました。

- (1) 新幹線の開業、乗車運賃、どんな現象が起こるか？—二次交通、観光流動など
- (2) 観光客や利用客を胆振・日高によび込むには？—胆振、日高振興局管内の施策紹介
- (3) 問題点とアドバンテージ—地理的、観光資源的、交通機関
- (4) 延伸に対する疑問？—札幌開業は 15 年後
- (5) その他、冬期の安全性
- (6) 道央圏の技術者としてやるべきこととは？



図-5 話題提供者 長谷川哲也氏(左)

「日胆地区の魅力発信は札幌延伸までの期間が勝負。今がチャンス！(延伸ルートは同地区を通らないため)」といった、当面の地理的優位性に期待を寄せる意見が多く見られました。

4. おわりに

甜菜(ビート)による製糖を行っているのは北海道だけであり、道内農業生産者にとって必要不可欠な施設であることを肌で感じた見学会でした。

事前準備や当日の説明など、多岐にわたりご協力いただいた道南製糖所 白幡副所長、南保総務課長をはじめ、製糖所の皆様に心より御礼申し上げます。

【勉強会追伸】新幹線ではありませんが、新たに上野—登別を結ぶ周遊列車計画があるとの報道を目にしました。日胆地区にとって嬉しいニュースです。